

(1)



兼続の決断は確かだった。また、彼が智将といわれた所以は、漢文を学び、値打ちのある古今の書物を収集したことなどからわかる。

3年 伊藤 大二

愛の兜の直江兼続を調べる

九里祭展示（九月一日・二日）

図書館だより

九里学園高等学校
員会
図書委員会
川島印刷
TEL 21-5511(代)

今年の九里祭で図書委員会は「直江兼続展」をしました。NHKの大河ドラマに直江兼続が決まったことを受けて、彼の生涯を調べようということになりました。

はじめに兼続の生れ育つた新潟を目的地とした一泊の研修旅行を計画しましたが、中越沖地震で旅行は中止になりました。諦めきれないなかった私は、研修地を地元米沢に変更して兼続の足跡を訪ねました。地元に住んでいた人が

今まで知らなかつた所ばかりで、改めて兼続の成した偉業を知りました。

こうして金夏休みをつかつて、私達は大汗をかきながら、展示を完成させることができました。そして今年も、九里祭一週間前から借用した鎧を交替で着て、コスチューム班が作った陣羽織と慶次の朱槍を手つて放課後何回も校内をねり歩くパフォーマンスをしました。これが特に楽しい一時でした。

当日は、会場は混み、展示物を真剣に読んでくれる方が多く、やりがいを感じました。兼続の関心の高さからか、いろんな人から好意的な評をもらいました。また、すぐ後に出了した兼続の展示をまとめたプリントは「ほしい」という希望者が多

た。同時に一般の方から間違いを指摘されたりしました。そこで、私達は戦国という下克上のきびしい時代に、愛を兜の前立てにし、力強く生き抜いた直江兼続の生涯を立体制的に知ることが出ました。

く、三版を重ねました。同時に一般の方から間違いを指摘されたりしました。

一番は、彼は背が高く美男で、性格は勤勉で話し方がうまかったそうです。この人格が、石田三成や前田慶次をひきつけ、秀吉、家康からも一度おかれることになつたのだと思います。

二番は、戦国時代の真只中にあって、漢文を沢山読みたい・知りたい・学びたい



五つの魅力
私たちが選んだ



兼続のここがすごい

四番目は、家臣たちと一緒に米沢の町を造り、特に治水工事は成功し、今でも用水路として使われていることです。

そして、兼続の最も重要な所は、人々を愛するという「仁愛」の精神を生涯貫いたことだと思います。

図書館だより

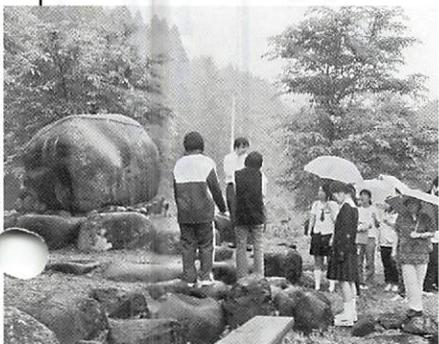
(2)

本物の火縄銃に触れる

図書委員研修旅行

7/21

2-3 中村 雅俊



今年の図書委員研修旅行は新潟で、直江兼続に縁のある場所に行く予定でしたが、七月十六日の中越沖地震で中止になりました。そのため急遽、兼続が関係した米沢の遺跡を巡ることになりました。まずは向つたのは猿尾堰で、兼続が堀立川に水を流すために松川から水をあげた堰です。そこには龍師火帝という大きな碑がありました。龍師は水の神のこと、そして火帝は火の神です。兼続が安全を祈つてつくった碑です。直江兼続は米沢の町の基礎を造つたといわれていますが、松川の氾濫から米沢の町を守るために石堤を造ります。今こそが公園になっているので私達はそこで昼食をとりました。それから直江のお墓がある林泉寺。山から木材を木場まで流したという帶刀堰を見ました。

最後は宮坂考古館でした。兼続の愛の兜とは別の梵字の兜を見

てきました。またそこには前田慶次の甲冑もあり、彼等がどのような姿で戦場を駆けたのかを感じる事ができました。そして槍や火縄銃は本物で、心をおどらせながら触つてきました。それに慶次清水や、兼続ゆかりの武士団が住んだ町などを巡りました。その先々で私は、戦国のきびしい時代を生きた兼続の姿を思い巡らす事ができたと思ひます。もしかしたら新潟に行くよりも自分たちの町米沢を兼続にしほつて見ることの方が発見があり、よかつたのではないかと思います。

2-1 加藤 哲朗

五月二十八日の図書委員読書会は、井上ひさし著の「汚点」でした。はじめてこの本を手にとる人は、おてんと読んでしまいました。「汚点」でしすが、これを読みと読ませるのだそうです。

この本を読んで私が感じた事は、兄弟の絆や本当の意味でのボランティア精神とは何かということでした。兄が弟から来たハガキに汚点がついていたことで弟の不幸を読みとるところがすごいと思いました。兄が弟から来たハガキに汚

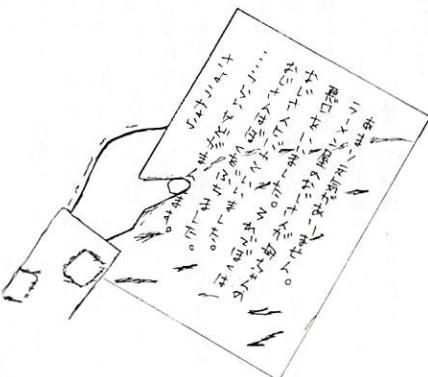
院にいるぼくらの不運を観賞して帰っていく。」という文章があり、私は衝撃を受けました。本

の意味でのボランティア精神とは富む人が優越感で施しをすることではないということを思われる文章でした。

また、この作品では気になる登場人物もいました。それは舟橋という、主人公達をいじめる人物なのですが、彼を見ていると貧困は、人の性格や心を曲げてしまうものなのだと思います。そして、井上ひさしさ

んがこの作品を「汚点」と読ませる意味がなんとなくわかりました。それは、心に広がるどうしようもない悲しさやつらさ、その深い痛みはおてんという汚れた点ではなく、消せないしみなのだと思いました。貧しさからくる感情は、子供達も母親もみんなにしみとして淀むものであります。兄弟の愛情や絆が希望になるのかも知れません。

今回の読書会で得たことはとても多いと思います。本にはいろんな思いや考えがねむつていい事がわかり、読書への見方が変わり、少し自分の世界が広がったと感じます。これから読書でまた少しずつでも広がれば自分が人として高めていけると思っています。





最大の敵は はっきりしていないことでは

重松 清 著 「ナイフ」を読む

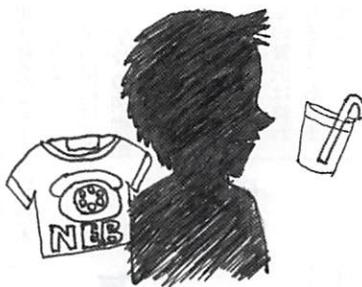
三校合同読書会 7月25日 於 九里

七月二十五日、本校を会場に、米工、米商、九里の三校合同の読書会が行われました。参加者は約四十五名でした。今回の読書会の本は重松清著の「ナイフ」でした。この話はいじめられている息子の父親が主人公です。暴力から身を護るためにナイフを買い、息子を助けるためにいじめに立ち向かう話です。

グループに分かれて話したい、「何故ナイフをだそうとした時に指を切り、背負つたものの重さが消えていく心地よさを感じることができたのか」という問いに「弱い自分に気付いた」「背負つていた自制心が無くなつたから」等の意見がありました。また、「何故、あの時ナイフを引き出せなかつたのに、後になつて引き出すことができたのか」では、「プレッシャーが、心の引き金を引けなかつた」「無意識のうちにためらいが生じた」等の意見がありました。

読書会では、ナイフを持つ事での心の変化や、ナイフが暗示するものを、私は捕えることができました。

好きな主人公は誰かと聞かれれば、「風の歌を聴け」の主人公である「僕」を選びたい。舞台は一九七〇年の夏。主人公の「僕」は実家に帰省した。そして、友人である「鼠」



村上春樹の

「風の歌を聴け」の「僕」

とビールを飲みまくつたり、左手の指が四本しかない女子と親しくなつたりして一夏を過ごす。平凡な話だ。

「僕」は二十一歳。大学生だ。とび抜けた才能も持つていいなし、どうしようもない欠点があるようにも思えない。

時々変な冗談を言うけれど、普通の人だと思う。あこがれるべきところも無いように思える。泥酔した状態で車に乗り込んだり、女の子に借りた

レコードを無くしたり、時々嘘をついたりする。

普通の人だ。素晴らしい人間ではない。しかし、どこか違う。

なじみのバーテンである

読書会では、ナイフを持つ事での心の変化や、ナイフが暗示するものを、私は捕えることができました。

話し合いの後半で、見守る父と、口をはさむ母に対しても様々な考え方と意見が出ました。

が、私が一番印象に残つたのは、「最大の敵は、はつきりしていないことではないか。」という意見でした。こういう考えを持つていて高校生がいるとは思つてもいなかつたし、読書会でなければ知らないまままだつたと思いました。読んで話し合つてみると、ことには大切だと実感しました。

(三年 江口 真美 記)

私の好きな普通の人の風

主
人
公

1-7 高橋 諒

ジェイが言うように「僕」はどこか悟り切つたような部分がある。

話しかけられるまで何も言わない癖を指摘され、直した方がいいと言われたとき、彼はこんなことを言つている。

「ポンコツ車と同じなんだ。」これと同じように、世の中にはどうしようもないことが何處かを修理すると別のところが目立つてくる

「僕」は二十一年。大学生にはある。人は歳をとるし、いつかは死ぬし、百年もたてば忘れられてしまう。どうしようもない。

普通はそのことに必死で抵抗したり、恐怖を感じたりする。けれども、「僕」はそれを受け入れていてるように思える。そのことが、彼の不思議な魅力と、哀しげな雰囲気を作り出しているのだと思う。それが、彼のかっこ良さなのだろう。

図書館だより

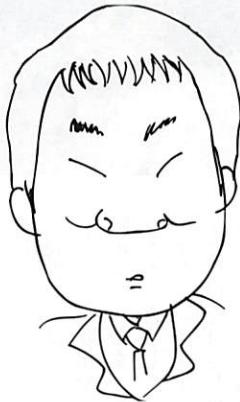
(4)

2007.11.6

読書の楽しみ

すべては

貧乏性からはじまつた



私が本を読むようになった

きっかけは、はつきり言つて

しまえば貧乏性だつたからで

す。少ないお小遣いで最大限の

快樂を得るために、私は漫画で

はなく小説を選びました。単純

に言えば漫画はすぐ読み終わ

てしまうけれど、同じ値段でも

文庫本なら長く楽しんでいられ

る、そんな理由です。

しかし、きっかけは何であれ、

私は次第に本の魅力に取り憑か

れていきました。本が好きな人な

ら分かつてくれると思うけれど、

時に文章は映像よりも雄弁に五

感を刺激してきます。真っ白な背

景に並ぶ文字そこには人間の息

づかいがあり、話し声があり、香

りがあり、また静謐さがあります。

身が好んだということもありま

す。昔食べられな

かった食べ物が大人

になつて美味しい

と感じることがあるように、読む本にもまたそんな変化があるんじやないかと思ひます。例えは、最近の私はノンフィクションをよく読みますし、仕事の影響もあつてか、小説にしても史実や現代社会をベースにした本を読みます。

世の中には、そして学校の図書館にはたくさんの本があります。

偶然の出会いと

変化がある限り、私の贊沢は終わ

りそうにあります。

1年4組 小野 夏実

始めたまじめに考えて、たくさんの意見が出て

よかつたと思います。

私が一番よかつたと思う所は、「女らしさ」というものはキープしな

くとも、すでにあるもので。という所でした。女らしさは自分にあまりないのでと思つていましたが、そう書いてあって少し自信が持てました。

普通の読書会の形式とちがう方法だったので、クラスのみんなに著者からの「女」としてメッセージが伝わったのではないかと思います。

成功したよクラス読書会

「女らしさ入門(笑)」 小倉千加子 著

私達のクラス読書会は、「女らしさ入門(笑)」を読みました。読書会当日の五校時にその本を読み、六校目によく読書会となりました。五、六人で班をつくり、一人ひとりメモ用紙が配られ、それに自分の思つたことを書いてパネルに貼つていくというものでした。みんな活発に「女らしい」とはどんなことかをそれぞれあげました。また、「女で良かった事、悪かった事」とは?などたくさんの意見を出し合いました。意見の中で「良かった事は、子供が生める事」で「悪かった事は、心でも肉体的にも痛みが多いこと」という意見があつて、私もすごく共感しました。

で良かった事、悪かった事」とは?などたくさんの意見を出し合いました。意見の中で「良かった事は、子供が生める

名著の伝記 <その9>

火坂雅志 著

『天地人』



編集後記

兼続が注目されています。私達はばかりなので、今回は兼続を主にして編集しました。

また、読書会の記事も、その本の中味に入った文章を書いてもらいましたので、みなさん読んでみて下さい。(3年伊藤大二記)

この小説では、兼続が心ひかれの女性が何人か登場します。そのことで彼のかしこくて堅いイメージが取れます。そして試練に立ち向かい、深く考へ決断していきます。

この小説では、兼続が心ひかれの女性が何人か登場します。

そこで彼のかしこくて堅いイメージが取れ

れて大変面白く、特に千利休の娘お涼は爽やかな感じがします。

兼続は学問を愛し、私達の住む米沢の基礎

を造りました。この「天地人」はそういう意

味からも名著として読んでおきたい一冊です。